

元気いっぱい



ごとう らいむ
後藤 来夢くん
(10歳・辛川)

- 趣味 ゲームをすること
- 将来の夢 サッカー選手
- 今一番やりたいこと テレビに出たい
- お母さんに伝えたいこと いつもご飯作ってくれてありがとう

菊陽人 りさーち



掲載を希望する人は、はがきか電子メールに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記し、〒869-1192 菊陽町役場総合政策課 sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡します。

ひょうきん



やの のこ
矢野 栞乃子さん
(12歳・辛川)

- 趣味 ドラマを見ること
- 将来の夢 看護師
- 今一番やりたいこと 遊園地に行ってジェットコースターに乗りたい
- 家族に伝えたいこと これからはもっとお手伝いを頑張ります

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.68】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎(232)2113

◇印からの文章は、先生のコメントです。

世界人権デー 12月10日

人は誰もがみんな幸せに生きていたい願っています。
夢や希望を持ち、生き生きと暮らしていくためには、全ての人の人権が尊重される社会の実現が不可欠です。そのためには、一人一人の行動が必要で、人権尊重の社会へ向けて、まずは自分自身から、少しいつから始めてみませんか。

三人で遊んだよ

武蔵ヶ丘第二保育園
紫垣陽菜 6歳



ママが「ママがこはんを作っている間、ゆい(妹)とりょうたろう(弟)と新幹線のおもちゃで遊んだよ。りょうたろうが「つないで、つないで」と言ったから。ゆいと一緒にバググから線路を出してつないであげた。そしてりょうたろうが喜んで新幹線を動かして遊んでいたよ。ゆいとひなも一緒に遊んだよ。
ママが「こはんできたよ」と言ったら、三人でお片付けをしたよ。

◇保育園で
お手伝いをよくしてくれる
とても優しい陽菜ちゃん。
仲良しな三人兄弟
で妹や弟のお世話もよくしてくれています。三人でここに遊んでいる姿は、見ている私たちも幸せな気持ちになります。



▲妹弟思いの優しい陽菜さん

人権ってなあに シリーズ⑥

●「同和問題」は今

1971年明治政府が出した「身分解放令」は大きな画期でした。それまで「差別が当然の社会」であったものが、この「解放令」で差別的な政治的根拠はなくなり、「差別は不当なもの」といえる社会になったのです。しかし、政治的制度的、また法制度的差別はなくなったはずなのに、140年後の今日に至るまで、現実には「差別が存在する社会」なのです。

●同和問題は解決していかないのですか？

1969(昭和44)年から2002(平成14)年まで33年間にわたって続けられた同和对策事業の結果、同和地区及びその周辺地域等の改善が進み、同和問題の解決に向けて大きく前進しました。
しかし、心理的差別的解消については課題が残ります。特に自分と同和問題との関わりを避けようとする「回避意識」の解消が課題となっています。

●差別をする人の問題？

心理的差別はどのように形成されるのでしょうか。「三つ子の魂百まで」といいますが、個人が持たされている心理的差別はその個人が生育してきた時代や社会の影響を受ける中で形成されてきたといえます。時代や社会の影響(「社会意識」)に大きな影響を受けているということは個人の問題ではなく、社会全体で取り組まなければならない問題なのです。正しいことを学ぶ機会がなく、親から子へ、子から孫へと間違った差別意識が刷り込まれ、それを空気を吸うように受け入れていくと、いつまでも予断や偏見はなくなりません。

●差別意識の解消のために

個人意識は、同和問題を知ったきっかけが私たちの意識の形成に大きな影響を及ぼしており、大阪府が行った意識調査によるとその中でも初めて知ったのが学校教育であった場合、他に比べてかなり回避意識が明らかに克服されていることが示されています。このことから差別の解消には同和問題について正しく学んだら当事者の思いに耳を傾けたりすることが大事だということがわかります。自分にとって都合のいいところは受け入れ、都合の悪いところは理由を作って排除するということはありませんか。自分が大事にしているものを否定されたり自分に責任のないことでのけ者にされたりして悔しい思いをしたことはありませんか。自分が大事にしたものはあるように、他の人にも大事にしたいもの、守りたいものがあります。お互いの大事なものを守るために、自分自身で「少しのこと」から行動に移してみませんか。

きくよう文芸

菊陽句会報

同じ道の一つ所に鳴くちちろ	井 子文	日陰求め木犀の香に包まるる	井上久美子
余生とはこんなことも星月夜	財津 早雪	敬老日恙なき身の至福かな	宮川ユキエ
こぼれ咲く萩の小花に風生るる	原野レイ子	大阿蘇を借景と受け菊の宿	日高 妙子
穂芒の夕日に光返しけり	力 幸子	秋天や組体操に沸く拍手	曾我 育代
一鉢の花にまつはり秋の蝶	寺尾千代子	稲を刈る鎌のリズムの記憶かな	曾我トモ子
神楽舞小枝持つ児も回りけり	高橋 孝子	よき日和たちまち刈田の景となり	紫藤 祥子
カンナ咲くピロイドの如日に映ゆる	堀川 妙子	遙かなる山の幾重ぞそは真白	村上 朋子
見上ぐれば欠けゆく月のおはします	福田 貴子	金秋一日民芸館主の講話聞く	藤本 純子
風吹けば紫蘇の穂匂ふ狭の道	佐藤 節	演奏会リズム届けよ秋の風	佐藤 健
ノーベル賞大秋晴れの日本国	吉野 早苗	新葉の匂ひ乗せ来る耕運機	佐藤 澄世

短歌会

雨に濡れ紅色淡く咲きし花夏水仙は終り近しか
ビニールを剥がぬと決めて息子らと紐締め直すキユリハウスを
夕すげは月待ちがてに咲きそめて峠茅野の風に吹かるる
空澄みて注ぐ光は燦々と稲田は実りの輝きに満つ
朝冷えの庭の落葉の重なり色鮮やかな柿の葉一枚
ふる里の御池にうつる十六夜の光を背に家路を急ぐ
滔天の庭に仰ぎ見る菩提樹の一木にしばし心動きぬ
手に触るる春の泉の思ひありときめきて今新たに学ぶ

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
佐藤せい子
中村トシエ
松岡富紀子
山川 カヅ
松本 東亜